

江戸東京たてもの園

N0144

2021年11月

城取フードサービス研究所

城取 博幸

江戸東京たてもの園①

2021-11-19 17:11:26

江戸東京たてもの園

東京都小金井市桜町 3-7-1 (都立小金井公園内)

東京江戸博物館の分館



特別展示 縄文2021



## 展示品



## 今でも通用するやかん



## 縄文時代の服装

今の服装とあまり変わらない

弥生後期から着物に変わっていった



小金井付近では黒曜石は出土していない

使用もされていない



## 「縄文海進」時期の関東

縄文時代は温暖化で海面が上昇して関東は水に浸かっていた  
温暖化、海面上昇はCO2の影響だけではない



## 江戸東京たてもの園

江戸、明治、大正、昭和の建物をここに移築した



特に興味のある三井家の住宅を紹介します

三井の歴史

詳しくは

**【日本三大財閥】天下の三井財閥、名門の歴史をわかりやすく解説**元商社マンである伯爵

が、日本三大財閥の一つと言われる、三井財閥の歴史についてご紹介したいと思います。もともと三重県の松坂

にルーツを持ち、三井越後屋、両替商、三井銀行、三井鉱山、三井物産とその事業を質量拡大に努めてきまし

た。◆◆チャンネル登録はこちら◆◆<https://www.youtube.com/channel/...> [www.youtube.com](http://www.youtube.com)



### 「三井八郎右衛門邸」

1952年(昭和27年)港区西麻布に建てられた邸宅を移築

客間と食堂部分は1897年(明治30年)頃、京都で建てられ戦後港区に移築されたもの





「小栗忠順(役)」

小栗は戊辰戦争において政府軍に斬首されている

三野村利左衛門は残された小栗の家族の面倒をみた



三井財閥中興の祖

「三野村利左衛門」と「小栗忠順」との関係

詳しくは

**日本史】三野村利左衛門とその後「青天を衝け」で伊ッセー尾形が好演 三井の大番頭で三井財閥中興の祖 Minomura Rizaemon Mitsui Japan【日本史】「青天を衝け」に学ぶ 栄**

一とパリ万博 [https://youtu.be/Yuy\\_HqtSEz0](https://youtu.be/Yuy_HqtSEz0)【日本史】「青天を衝け」に学ぶ 土方と近藤

<https://youtu.be/IvMS5zL6OSc>【日本史】「青天を衝け」に学ぶ 小栗と海舟 <https://youtu.be/lZG0jCPyvow>【日本



## 案内図



## 三井家の住宅玄関

簡単に説明します





当時の写真には、門に武田菱が見える



杉戸の花鳥風月画



丸山四条派の画家による作品



金箔が貼られた客間



テーブルの絵は葵か



天井とシャンデリア



家紋



ここにも



食堂も和洋折衷



天井と欄間



キッチンも洋式  
今もあるガス台とオープン  
大きなシンクとの間に冷蔵庫



盛りつけ場



裏口の扉にはこんなオシャレな窓が



庭の案内図



庭の入口



井戸の右には大きな石



庭



当時は水が流れていた



庭側からの建物



茶室



万両

これは縁起物



土蔵

日本橋の一角にあった三井越後屋(三越)の絹蔵であったと言われている



次回は「高橋是清邸」を中心に紹介します

## 江戸東京たてもの園②

2021-11-21 16:58:07

ドイツから帰国して1カ月が経ちます

今のドイツの感染者は1日6万人を超えている

駅や空港ではマスクをする人はいたが、町中はノーマスク(私たちを除き)の人が多かった  
テラスで前のように談笑の風景を見ていればコロナは終わったように見えた

日本も「油断」は禁物だ

「江戸東京たてもの園」続き

江戸から昭和までの建物を移築した施設

気になった建物だけを紹介します



## 高橋是清邸

建築年 1902 年 旧所在地港区赤坂 7 丁目

元は丹波篠山藩青山備前守の中屋敷であった



三井物産初代社長「益田孝」、大蔵大臣(6回)、総理大臣を歴任した「高橋是清」

どちらも我が母校、ヘボン塾(現明治学院)で学んでいるという共通点がある

是清は日露戦争の戦費(外貨建て国債)を、イギリス銀行団と銀行家ジェイコブ・シフから調達した話は有名

その借金返済は 1986 年まで続いた

詳しくは

**【ゆっくり歴史解説】高橋是清 奴隷から総理大臣になった男** 留学先で騙され奴隷生活や、詐欺に遭いながらも何度も立ち上がり、日露戦争の戦費調達や、金融恐慌から日本をいち早く立ち直らせた不屈の男「高橋是清」をゆっくり解説間違っているとところもあるかも知れませんが温かい目で見ただけであれば幸いです



「渋沢栄一」が日本の経済発展に貢献したのに対し、「高橋是清」は日本の経済破綻を防いだ銀行の「取り付け騒ぎ」が起きれば、片面しか印刷していない札束を銀行内に積み倒産を防いだお金を回して景気をよくする例えもおもしろい

今の政府も経済支援で 55.7 兆円を抛出

地方は大変苦勞している 有効に使ってほしい

詳しくは

**昭和恐慌と高橋是清【池上彰と増田ユリヤの“人類 vs 経済危機の歴史”】#4 (2020年 7 月 24 日)**シリーズでお伝えします、池上彰と増田ユリヤの“人類 vs 経済危機の歴史”新型コロナの影響で経済危機が忍び寄っている中、コロナショックという言葉もうまれましたが第4回目は昭和恐慌と高橋是清に

ついて解説します。#世界恐慌#池上彰#新型コロナ#経済危機#高橋是清#昭和恐慌#増田ユリヤ◆「ワー

ワー



高橋是清邸

瓦がスゴイ



説明文

たか しま こと きよ てい  
**高橋 是清 邸**

House of Korekiyo Takahashi

高橋是清は、経済界の政治家として、明治から昭和の初めにかけて日本の政治を担った高橋是清の住まいの主要部分である。是清は、赤坂の丹波篠山藩青木家の中屋敷跡地約4,000平方メートルを継承し、1902年(明治35)に邸宅を建てた。建物は、敷地と芝居を兼ねており、また名所としては高橋は清子園子も、緑地に多量に使用している。単にあっては、主屋のほか、附帯の土蔵や、蔵れ座敷がある大きな邸宅だった。

1926年(昭和11)、是清はこの建物の土蔵で青年期に誘拐された(23歳事件)。敷地と芝居はまもなく東京市に寄付され、記念公園となった。是清の眠る多摩公園に埋葬され、休憩所として利用されていた土蔵部分が、この場所に移築された。

建築年：1902年(明治35)  
住所：港区：港区赤坂七丁目

This was the central section of the residence owned by Korekiyo Takahashi, a leading figure in Japanese politics during the Meiji and early Showa Periods, who was known for his role for economic. Korekiyo purchased a 4,000 sq plot of land in Akasaka from the Aoyama family belonging to the Tanabe house in 1902. The central section was built mainly with wasshoji (thousand spruce), has an intricate roof structure and glass sliding doors separating the Japanese rooms from the wooden passageways facing the garden (which were reserved at the time). At the original location in Akasaka, the large estate also included a 3-story mansion with a big market stall and another detached building in addition to the central section.

On February 26, 1909, Korekiyo was assassinated by a young military officer on the second floor of the building (the 23rd Incident). Soon afterwards, both the land and the building were donated to the City of Tokyo, and the site became a memorial park. The central section was then moved to the Tama Country, where Korekiyo was buried, and used as a rest area, but it has now been moved to its current location.

建：1902  
Original location: 7-chome, Akasaka, Minato Ward

年譜

西暦	旧暦	年齢	事項	備考
1854	安政	元 0	幕府御用医師(川村庄右衛門)の私生児として生まれ、まもなく仙台藩の足利、高橋是清家に養子に出される。	
1864	元治	元 10	横浜に移住し、ヘボン塾等で英語を習得。養祖母高代子が家督等としてサポート。	
1866		2 12	横浜大火で一時的に帰郷。再び横浜のイギリス系銀行の支配人、シャンドの下でボーイとして働く。	
1867	慶応	3 13	仙田藩士の海外留学への同行を許され、鈴木六之助(如隠)とともにアメリカへ渡航。ワシントン・シカゴのフアンランド家→オークランドのブラウン家へ。双膝赤血病であったことを後日知る。	
1868		元 14	明治維新を知り、宇和島藩士城山静一とともに帰国。城山の紹介で森有礼の書生となる。	
1869		2 15	設立された大学南校に入学。その後英語教育に復帰。同校設立に尽力した宣教師フレッドの元へ赴任。	教え子：飯野金吾ほか
1871		4 17	阪神のため、大学南校辞職。香津藩英語学校教員として赴任へ。	
1872		5 18	香津藩職止のため帰郷。大蔵省十等出仕→補任学校入学。	
1873		6 19	森有礼の紹介で文部省通訳となる。	
1876		9 22	東京英語学校の教員となる。西郷従光と接触。明治17年、解任後。	教え子：松山真之ほか
1877		10 23	共立学校の英語教員となる。	
1878		11 24	東京大学予備門の英語教員となる。共立学校校長となる(学園門教員兼務)。	
1881		14 27	文部省出仕。農林省に転任。農務登録、専売特許制成立に奔走。	
1882		15 28	日本銀行奉命制定。日本銀行開業。	
1884		17 30	農務省出仕。農務省農務課長補佐となる。	
1885		18 31	専売特許所長兼務。専売特許制度研究のため欧米を視察。	
1887	明治	20 33	特許庁、農務省から独立。消息伝子と再婚。	
1889		22 35	専断を辞し、農山博覧会事務のためベルギーへ。翌年、皇立博覧会に参列。帰朝。	
1892		25 38	日本銀行本店新築工事の建築事務主任となる。	連れ戻しの工務部長。
1893		26 39	日本銀行取締役。前年の内閣改組後として農務(下期)へ赴任。翌年、日清戦争勃発後、軍事費調達に奔走。	二ヶ月で10万円を儲け18万円を集める。
1895		28 41	横濱正金銀行本店支配人に就任。翌年、取締役にも選出される。	岸上の土地を家賃購入
1897		30 43	日清戦争後、金貨の増産に。日本銀行に役員も兼ねる。	
1898		31 44	横濱正金銀行役員。朝米金融恐慌の際のため出陣。	
1899		32 45	日本銀行取締役兼務に就任。金貨増産に上意を察し、本邦上から参上。	明治35年、後援者として
1904		37 50	日清戦争後、外債募集のため米業へ派遣される。	
1905		38 51	日清戦争後、外債募集のため米業へ派遣される。	
1906		39 52	横濱正金銀行役員兼務。	

展示室は食堂として使われていた  
床は寄木が敷かれている



廊下



障子の外は座敷牢のような構造が  
セキュリティのためか



2階へ上がる階段  
ここを彼らは土足で駆け上がっていった



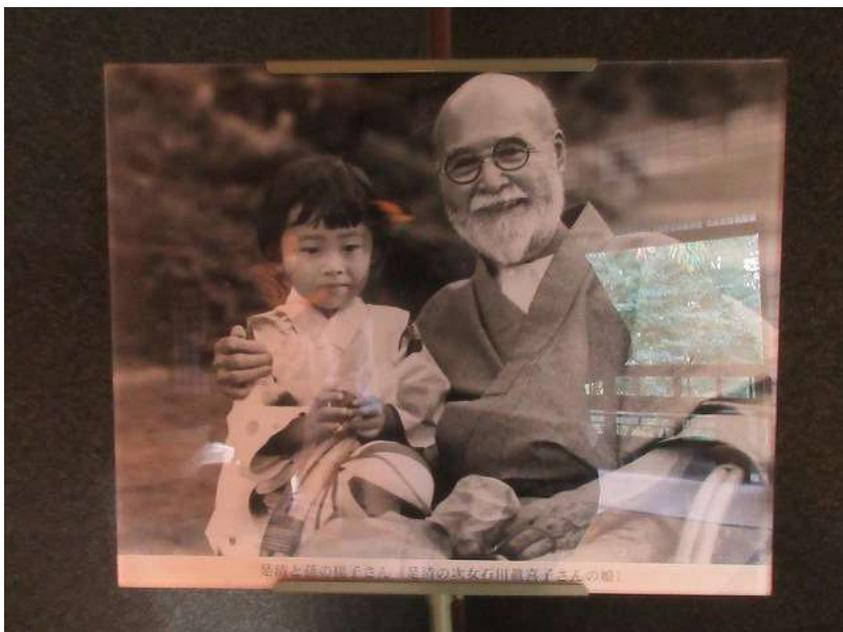
二階の座敷



書齋と寢室



いい写真だ



床の間の書

この部屋で事件が起きた



不忘念



「不忘念」とは「正法を心に念じて、忘れないようにすること」



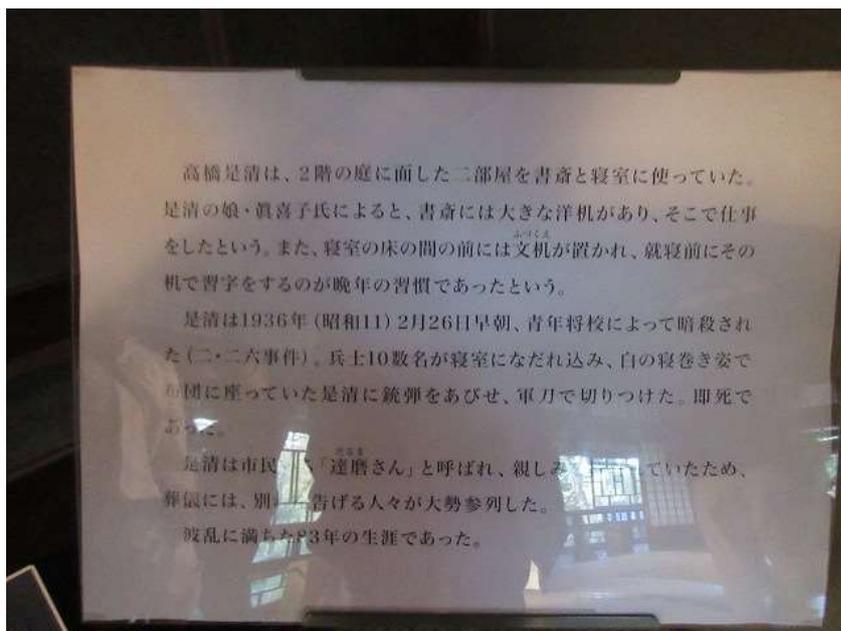
## 2. 26事件

### 皇道派の影響を受けた陸軍青年将校のクーデター

1936年、2月26日早朝、兵士10名が寝室になだれ込み、白の寝間着姿で布団の上に座っていた是清に6発の銃弾をあびせた

さらに軍刀で切りつけた(享年83歳)

原因は軍事費抑制によるもの



二階廊下の角 光を多く取り入れる構造

ガラスは当時のまま



2階の廊下からの景色



別邸



庭からの景色



隣は



こんな景色が



## 会水庵

大正期、茶人山岸宗住(会水)が施主となり、新潟県長岡市に建てられた山岸家東京移住に伴い吉祥寺に移築された茶室



雨どよは竹でできている



入口



内部

私は最近コーヒーがあまり飲めなくなり、抹茶に興味を持つようになった



八王子千人同心組頭の家

江戸時代後期



これはゆず？



八王子周辺に居住していた甲斐武田氏の小人集団  
武田氏滅亡後は徳川家康の配下となる

はち おう せ せん にん とう しん くみ がしら いえ  
**八王子千人同心組頭の家** W5

**House of the Leader of the Hachioji Guards (Hachioji-Sennin-Doshin)**

八王子千人同心は、八王子で甲斐との国境を警備するために配属された武士結隊である。領・領の戦いの頃には 3,000 人ほどの規模であったため、その名がつけられた。武士とはいえず、半農半戦を営む半農半士のまじりめで多岐な形勢であった。

1805 年（天明 26）に日輪の大火で家を焼失した横田本家が、八王子にあった千人同心の子孫である堀野家から建物を買い取り、その邸宅を転用して自警衛に邸宅を建てた。堀野家は千人同心の源流を継いだ家柄で、先祖には「源朝臣」の家名として有名な長曾我部がいた。

この建物は、横田本家の各屋敷に残る戦跡の調査から、江戸時代末期の千人同心の居たであろうと推定された。

建築名：江戸時代建構  
住所名：八王子市早明  
管理者：横田本家継承

The Hachioji-Sennin-Doshin (Hachioji Guards) was a retainer band of samurai stationed in Hachioji to defend the border with Kai Province. The inclusion of the word Sennin (1,000 people) in the name of the band is due to the fact that the band consisted of approximately 1,000 samurai warriors during the Battle of Sekigahara. The band was extremely unique in that the members were actually farmers by trade, but also fulfilled the role of samurai warriors.

After losing their home in the Great Fire of Edo in 1805, the Mitsuura family purchased the home owned by the Shinohe family, descendants of the leader of the Hachioji-Sennin-Doshin, and reconstructed it as a residence in Shinjuku City. One of the ancestors of the Shinohe family was Tokimune Shinohe, the father of the author of "The Soga Tales".

This house has been returned to the state so it was when the Hachioji-Sennin-Doshin resided there during the late Edo Period, according to investigations carried out on the remains of the Mitsuura home.

Build : Late Edo period  
Original location : Shinjuku-ku, Hachioji City  
Owner : Mr. Yoko Mitsuura

## 土間と奥座敷



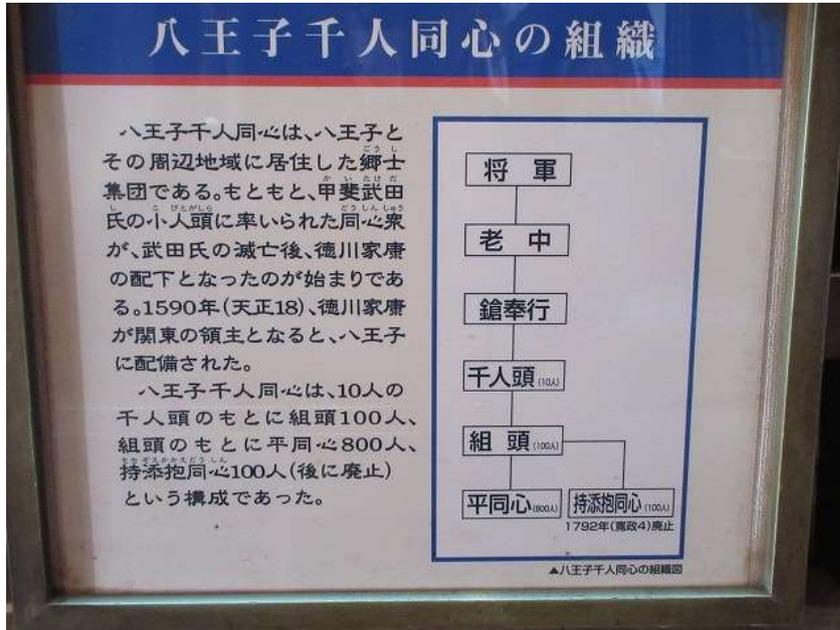
## 八王子千人同心の文化活動



## 組織

10人の千人頭のもとに、組頭100人、同心800名、持添かかえ同心100名という1000人の構成

役割は甲武国境を警備することであった



## 田園調布の家(大川邸)

1925年(大正14年)建築



鉄道省の土木技師大川栄氏が建てた住宅  
 全室洋間で建てられ、中央が応接間と食堂  
 女中部屋もある



書斎  
 若いカップルの見学が多い  
 住宅展示場のようなだ



当時のラジオ



食堂

奥に料理を出す小窓(ディッシュアップ)カウンターが見える



キッチン内

右から冷蔵庫、シンク、ガスオープンレンジ



ガスオープンレンジ

これは欲しい



氷を入れて冷やす冷蔵庫



デ・ラランデ邸

1910年(明治43年)



今はカフェになっている

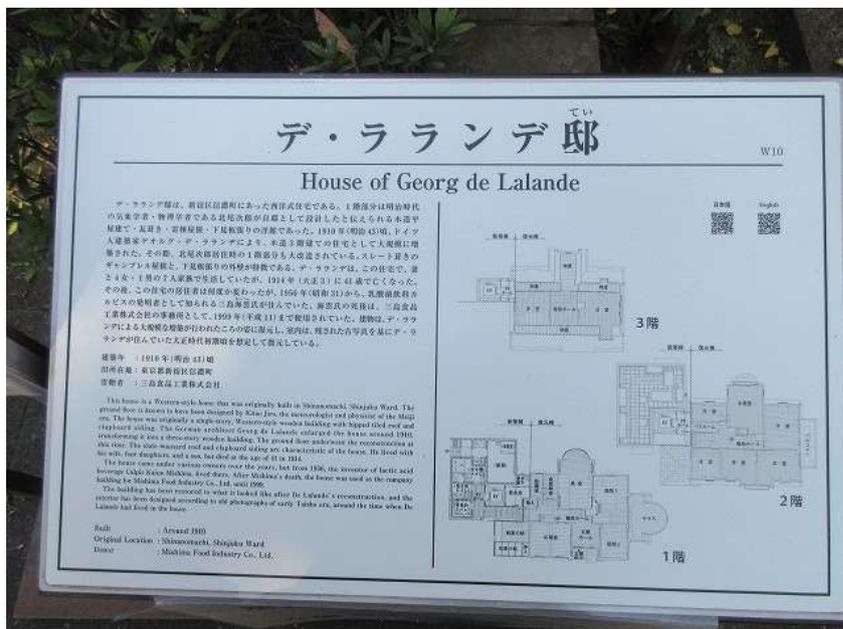


新宿区信濃町にあった洋館住宅

ドイツ人建築家ゲオング・デ・ラランデによって建てられた

居住者は何度か変わっている

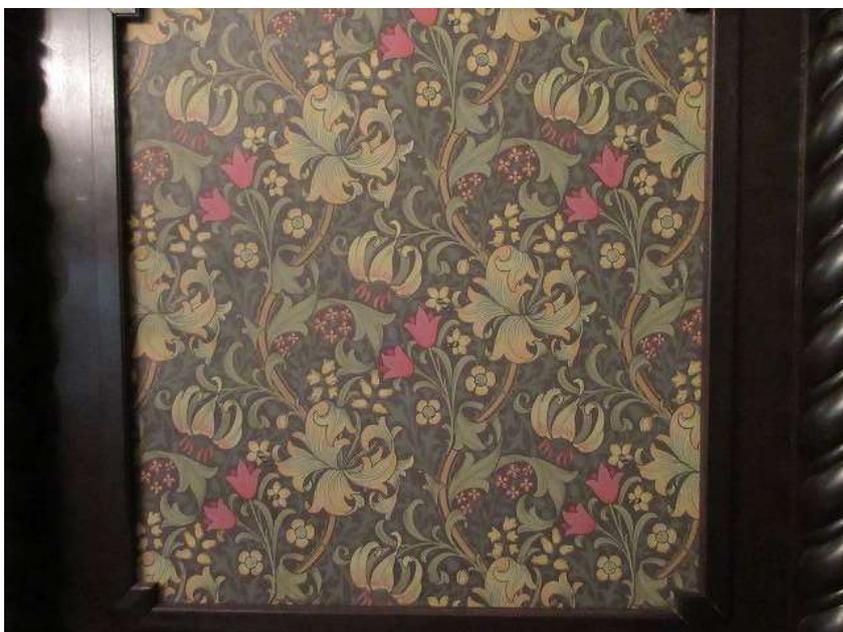
1956年、乳酸菌飲料「カルピス」の発明者「三島海雲」氏も住んでいたこともある



メイド



壁紙



食事は「ハヤシライス」のみ  
それを注文



出てきた



左上はヨーグルト、左下はピクルス  
混んでいることもあり、残念なことに冷えている



食後はコーヒーと菓子  
コーヒーはおいしかった



武蔵野マドレーヌ



旧自証院全霊屋

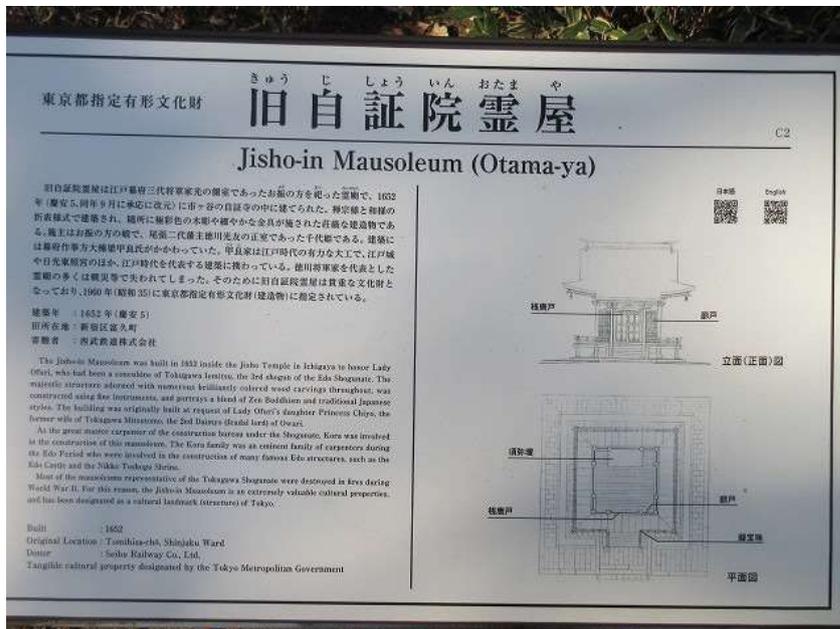
1652年(慶安5年) 新宿区富久町



## 内部の蓮の絵



## 徳川三代将軍「家光」の側室「お振お方」の霊廟 娘の「千代姫」が施主



伊達家(宇和島伊達家)の門  
大正期 港区白金2丁目



伊達家の家紋「三引両」



伊達家の門

旧宇和島藩伊達家が東京に建てた屋敷の門

宇和島伊達家 8代藩主「伊達宗城」は「青天を衝け」の「王政復古の号令」の場面にも登場している「四賢候」

残りの三賢候は、福井藩「松平春嶽」、土佐藩主「山内容堂」、薩摩藩「島津斎藤彬」

橋を渡り次の展示場へ



### [江戸東京たてもの園③](#)

2021-11-24 17:00:06

江戸東京たてもの園続き

興味のある所だけ簡単に紹介します

この街燈は見たことがあるような気がする

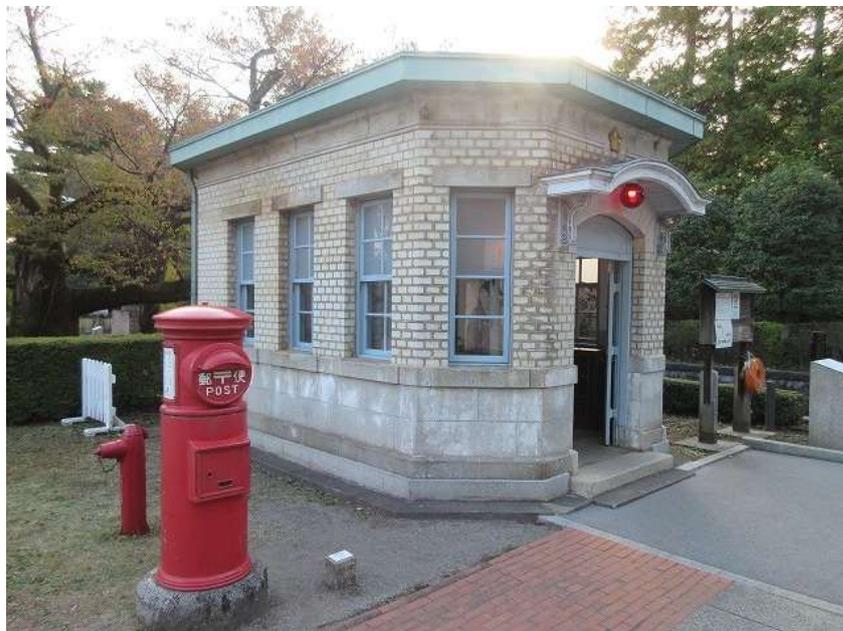


## 皇居正門石橋飾電燈

橋の欄干に6基設置されたものの一つ



## 交番



## 寢室



神田の万世橋のたもとにあった交番  
関東大震災で被害を受けたが、後に復元された



上野消防署 望楼上部



半鐘



## 櫓の上の部分



## 右の昭和の街並みを見学



昭和の街並み



正面が「子宝湯」  
週末は人が出るようになった



1929年(昭和4年)、足立区千住元町に建てられた銭湯



唐破風の下に「七福神の宝船」

昔はお寺が銭湯の役割を果たしていたため、建物がお寺に似ている



番台

どこを見ても階段がない



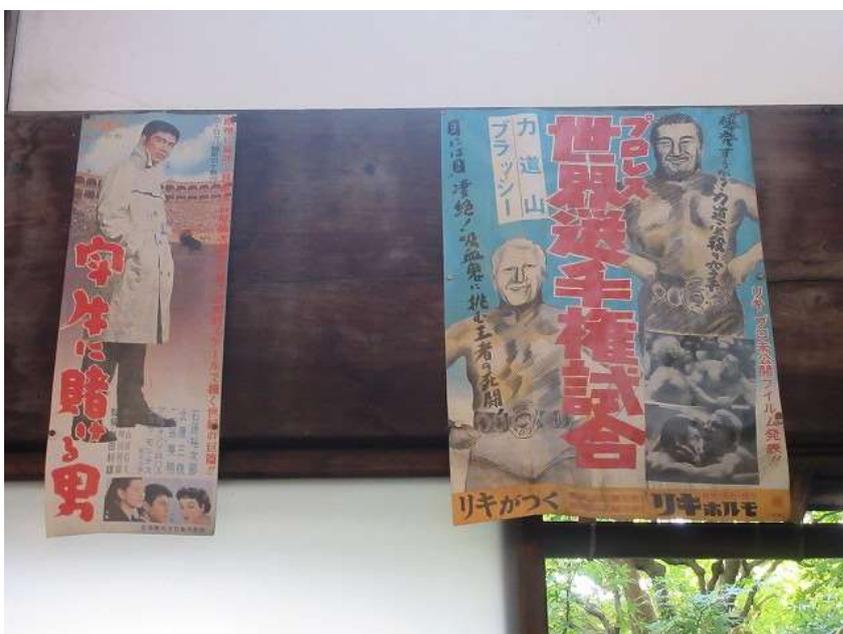
富士山の絵



女風呂との境と高い天井



力道山のプロレスのポスターと映画のポスター



## 銭湯の浮世絵

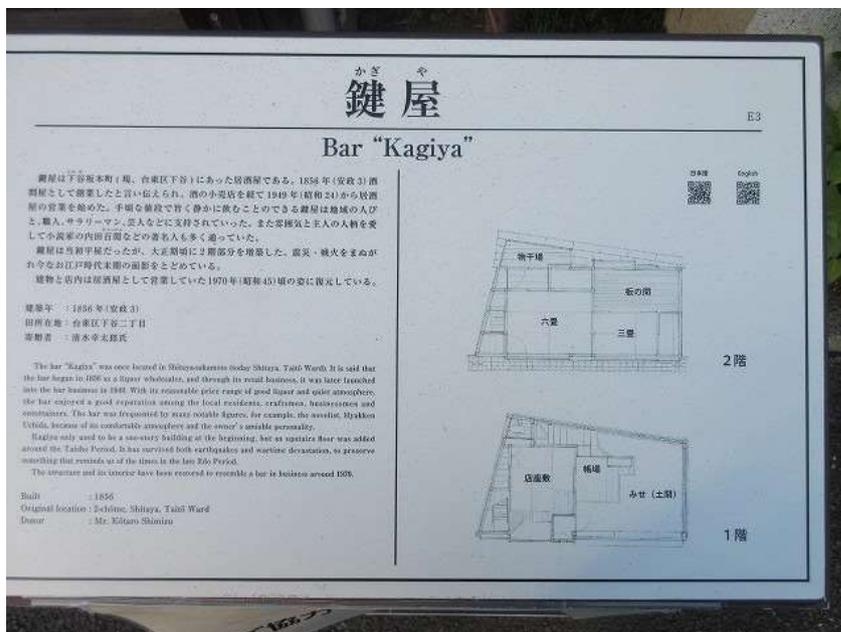


## 隣の居酒屋「鍵屋」

ポンペイの遺跡でも、ローマ風呂の隣には居酒屋があった



1856年に酒問屋として台東区下谷で営業  
 1949年、本格的居酒屋として営業を始めた



立ち飲み屋



酒の徳利



電気冷蔵庫



# 小寺醤油店



昭和初期に芝区白金台に建てられた「出桁造り」の住宅兼用建物

## こ で ら し ょ う じ ゅ て ん 小 寺 醤 油 店

“Koderu” Soy Sauce Shop

小寺醤油店は、大正期から現在の港区白金台で営業していた酒屋で、味噌や醤油を販売していた。戦後で醤油店と掲げているのは、創業者が醤油醸造の職人で修行したためと伝えられている。当時、酒屋で味噌や醤油を売ることが珍しいことではなかった。

1階と2階との下には、並行した梁をその上に架かっている。これを、出桁造りという。梁の端は、基礎といふ。在来のもとは、土間に架かっている。建物は建築当時から復元している。店舗部分は昭和20年代後半の落札と落札による築り直りの時代を、住居部分は1990年(平成2)の解体時のままの状態で再現している。

建築年：1933年(昭和8)  
 旧所在地：港区白金五丁目  
 建築家：小寺嘉次郎

The “Koderu” Soy Sauce Shop located in modern-day Shinokasa, Minato Ward. This business first began in the Taisho Period, selling miso and soy sauce. It is said that the name “Soy Sauce Shop” came from the fact that the founder had been trained as a soy sauce brewer. In those days, it was not unusual to see miso or soy sauce being sold at liquor stores.

Under the eaves of both the front and second stories, the brackets protrude over the beams, and this architectural design is referred to as *dekigirizakuri* (protruding beams) style. The workhouse on the site was called a *soke* (store) warehouse, used to store rice and other general commodities. The building itself has been restored in its original state, with the living area in the same form as it was before it was dismantled in 1990. The shop floor is a reproduction of how the shop would have appeared in the early 1930s, in the days when merchandise was measured with a *ladle* and *funnel* for mass.

Build: 1933  
 Original Location: 5-chome Shinokasa, Minato Ward  
 Designer: Mr. Yama Koderu

日本語 English





1階 2階



酒屋の始まり

日本酒とウイスキー



ブルドックソース



サンヨーのみつ豆缶詰  
子供頃はあこがれの商品



「初恋の味 初夏の味」カルピス  
これは覚えている



ノザキのコンビーフ



寿屋(サントリー)の創業者である鳥居信次郎が 1907 年に発売した「赤玉ポートワイン」  
ワインと言えばこれであった





当時のレジスター



大和屋本店(乾物屋)



たばこの販売も



1928年 港区白金台の目黒通りにあった乾物屋

やま と や ほん てん (かん ぶつ や)

## 大和屋本店 (乾物屋)

“Yamatoya Store” Grocery Store

E13

大和屋本店は、明治35年の通商手続通り沿いにある木造3階建ての商店である。3階の軒下は桧木製の板木が壁に取り付けられ、土間に沿って長い欄干を支える雨庇造りという形式をもつ一方、開口に対して背が赤漆に高く、立派なバルコニーや2階窓下に雨庇を用いるなど、音階建築の特徴を備えたユニークな建物である。建物は築当初の1928年(昭和3)に復元している。

大和屋本店は築屋当時から乾物屋の歴史を歩み、海産物の仕入れの困難になった昭和10年代後半以降は惣菜とお弁当と海産などを販売していた。復元にあたり店舗部分は店舗や昆布、豆、スルメ、海苔、鰻節など全業態する乾物の歴史の跡を再現している。大和屋本店では惣菜も販売しており、店舗裏面の惣菜の歴史の遺構を取り付けられている。現在取り付けられている惣菜屋の遺構は昭和30年代のもので、再建前の武田道成よりご寄贈いただいたものである。

建築年：1928年(昭和3)  
 原所在場：港区白金台丁目  
 寄贈者：土井道一氏

The Yamatoya Store was a three-story wooden structure located along the so-called "Mitsunodori Street" in Shinjuku-ku, Minato Ward. Under the eaves of the third floor, a number of brackets are referred to as the dashigara rafters (cypress beam style). This is an architectural design in contrast to the narrow frontage, about copper used for the history on the second floor and the building has been restored as it was at the time of its construction in 1928.

The Yamatoya Store had handled dry groceries since its founding and from the late 1930s, when it became difficult to keep its products in stock, the store sold tea and dried seasoned Gyoza, or Gyoza. Upon restoration, we have replicated the store area as it was before the Second World War, when the Yamatoya Store also sold tobacco, and in the street of the shop was a future for a tobacco shop. The Takasago shop Sennari seen here is from the 1940s, and it was donated by Mr. Takada Kiyoshi, a resident of Gasa City.

Date: 1928  
 Original location: 4-chome, Shinjuku-ku, Minato Ward  
 Donor: Mr. Michi Ise

1階 2階 3階

かつお節とスルメ



リベスランポリ？

これは記憶にない



## 丸二商店(荒物屋)



昭和初期 千代田区神田神保町三丁目

昭和初期に建てられた「看板建築」

まる に しょう てん あら もの や

# 丸二商店 (荒物屋)

“Maruni Shoten” (Kitchenware store)

E10

丸二商店(荒物屋)は、昭和初期に現在の千代田区神田神保町に建てられた店舗兼住宅である。

この建物は、関東大震災後に多く建てられた看板建築と呼ばれる様式である。前面部を銅板で覆われたその外観は、装飾的な屋根上端部の柱の影のスクラップ(建物の屋上に設けられた紙の手すり型)などにより特徴的なデザインとなっている。また銅板の意匠は青銅紋や文字、蘭代などの紋様を用いているなど趣向を凝らしたものである。この建物では、築地町から明神 30 年甲まで荒物屋を営んでいた。そのための内部の展示は古物類を中心とした日用雑貨が主本、最も衝突が激しかった昭和 10 年代の荒物屋を再現している。

また表手には、丸二商店に隣接していた副産物を同じくする長屋を復元し、それとともに跡地の情景も再現している。

建築年 : 昭和前期  
 住所(旧称) : 千代田区神田神保町三丁目  
 屋敷番 : 池田 町 丸二(田所有主)  
 寄附者 : 三学社法人 専修大学

Maruni Shoten was a building used as a house and shop selling household goods, built in the early Showa Period in the present-day Jinchōchō, Kojimachi, Chiyoda Ward.

The building was constructed in the so-called “kaban-tenryū” (signboard architecture) style, which was popular after the Great Kanto Earthquake. The exterior facade finished with copper plates is suitably designed with decorative columns at the corners of the roof and parapets (an extension of the eave at the edge of a roof moving up a line barrier). The copper plates also have elaborate designs, utilizing “seidōha” (cave crest), “chōmei” (stitch horizontal line), and “shōmei” (creeperwork) patterns.

The building had served as a general store since it was built until around 1926. The interior display is a reproduction of how it looked around 1940, when the shop was most prosperous, with household necessities and kitchen vessels laid up so neatly.

“Maruni” was named built in the same year adjacent to Maruni Shoten were restored behind the shop to recreate the atmosphere of the alley back then.

Built : Early Showa period  
 Former location : Jichime, Kanda-jūhachibō, Chiyoda Ward  
 Donor : Senjū University  
 Supporter : Ms. Sada Ikeda

2階

1階

手前は買い物籠  
弁当箱と大根おろし



乾燥したヘチマ  
風呂で垢すりに使われた



水筒

子供の頃遠足に持って行った記憶がある



湯たんぼ



五徳

囲炉裏で上に鍋ややかんを置いた



井戸のポンプ



金属からホーローの看板に変わっていった



土管で遊ぶ子供たち

昭和の風景だ



昭和の乗り物

路面電車



運転席が両側にある



ボンネットバス



蒸気機関車「C57」



機関室



運転席の窓からは前の線路は見えない



## 公園の陶器市



ここで、美濃焼の茶碗と茶筴(ちゃせん)を買う  
武蔵小金井のヨーガ堂で抹茶とまんじゅうを買う  
スーパーマーケットも茶碗と茶筴、茶さじの品揃えが欲しい



茶筴お先は丸まっているが使うと次第に伸びてゆく



ネットを見て素人なりにお茶を点(た)てる  
抹茶は「ながら飲み」はできない  
「ちょっと一服」  
お茶のぬくもりを感じながら、落ち着いたいい時間を過ごせた



いい一日でした  
次回は「青天を衝く」関連  
王子の渋沢栄一邸「飛鳥山公園」と谷中の徳川慶喜の墓、渋沢栄一の墓のある「谷中霊園」を紹介  
します